

園だより



10月号
2020年10月1日発行
ひまわり第1保育園
TEL 22-5172 FAX 22-3911
dai1@h-himawari.net

お知らせ

- ①来週(5日)から夏用の午睡マット・タオルケットを敷布団・薄い掛布団または綿毛布に変えてください。
- ②今年度のうんどう会はやり方を変更して行います。以前お配りした運動会についてのお便りをご確認ください。詳しい内容は後日お配りします。

朝、夕と肌寒さを感じ、日中も過ごしやすい季節になりましたね。道沿いの街路樹や園庭のいちようの木も薄っすらと色が落ち黄色くならうとしています。子どもたちは水や砂に触れてあそび、築山に上り下りを楽しんでいます。大きい子はかけっこや鬼あそびで盛り上がっていますよ。先月の29日ぼぶら組は東の原から女三瓶へ登りました。頂上からの景色を楽しみましたよ。

1日、いちよう組ぼぶら組は団子づくりをしました。午睡後にお月見会を開いておいしく味わいました。

ひまわりの運動会で大切にしている事

「水や太陽、土、虫や動物、広い空間と仲間、これは人間の子どもを人間として発達させる最初の、そしてもっとも大切な条件である」という考え方が、私たちの保育の原点です。

日々の保育では広い園庭を駆け回り、築山や砂場で泥だらけになって遊びます。全身をつかうことで、たくましく、しなやかな身体が育っていきます。そして友だちと遊ぶ中で人とかかわる力が培われていくのです。

子どもが身も心も心のびのびできる環境と関係づくりをしていき、なにより子どもの意欲を引き出すことを目指しています。そのために「やってみよう」「あそこへ行ってみたい」「できるようにしたい」と自ら向っていきたくなる遊びが日々の中にあるのです。小さい時からしている斜面のぼりや、リズム遊びも運動機能を高める目的ももちろんありますが、「自分の意志で、自分で判断しながら挑んでいく力」をつけていくことをさらに大切にしています。

うんどう会の内容は日々のあそびの一部を切り取ったものです。年長児になると、小さなときから培ってきた様々な力を発揮して少し難しい内容に挑戦していきます。どの年齢もですが、「必ずできなくてはいけないこと」ではなく、「わが子がこんなに大きくなったのだ。」と知ってもらい、子どもたちの意欲や強い意志を感じてもらおう機会であってほしいと思います。小さい年齢の子が「絶対出ない!!」とかたくなに座っている姿もその子なりの強い意志なのだと思うとたくましさを感じませんか？

ひまわりのうんどう会とは、勝ち負けや成功・失敗を評価する場ではありません。子どもたちが自分らしく参加できる行事にしていきたいと思っています。

毎年、広木克行先生を島根にお呼びし子育て講演会を開いておりますが、今年度はコロナの影響で残念ですが中止となりました。保育カレンダーについて広木先生からメッセージがあり園だよりに載せさせていただきます。

コロナ禍で考える2021保育カレンダーの値打ち

神戸大学名誉教授 広木 克行



この保育カレンダーを見ている現在、私たちは新型コロナウイルス感染の世界大流行という人類史的な試練に直面しており、かつてない不安とストレスの中で生活し子育てをしています。コロナ禍は1日も早い収束が望まれる本当に深刻な問題です。しかしその反面、コロナ禍はそれ以前の生活の中で「あたり前」と感じて見過ごしていた問題の値打ちに気付く機会になっているとも言われています。

毎日仕事に出かけられることの大切さもそうですし、安心できる家庭の有り難さや子どもがいることの素晴らしさへの気づきもその一部です。さらに最近数ヶ月の体験を通して、もしも保育園がなかったら子育てしながら仕事をすることが如何に難しく大変なものになるか、その事実の重さに気付かされた人も多かったに違いありません。それは核家族が多く孤立しがちな今日の社会で、保育は医療や介護などと共に「エッセンシャル・ワーク」と呼ばれる、社会の維持に不可欠な公共的な仕事であることへの気づきだと思えます。

そんな体験を踏まえて保育カレンダーの絵を改めて見つめ直した時、私たちにどんな気づき生まれ得るのでしょうか。私自身の経験も交えてそのことを探してみたいと思います。私は30年以上にわたってさくら・さくらんぼ保育の理論と実践を学んできましたが、毎年、多くの卒園児達の絵を見るたびに感じる驚きがあります。それはどの絵を見ても大きな紙面一杯を使い切って描かれ、広がり動きを感じる自信に満ちた個性的な自己表現になっていることです。しかしそれは単に子どもの絵が上手だという意味ではありません。

子どもの絵を見ながら話す保育士たちの話を聞いていても分かるのは、「うまい」とか「下手」という話は決してしていないことです。それは保育士たちがすべての子どもを一人一人の人間として尊重し、子どもの絵を「その子の身体と心の育ちを映し出す鏡」としてみているからです。もちろん子どもの身体機能や知能の一部の育ちには一般的な法則性が見られます。しかしその育ちの速さは多様ですし、感性や情緒あるいは興味や関心などの心の育ちにおいてはまさに千差万別で、一人ひとりが違っています。

カレンダーの絵をもう一度よく見てみると、その中には沢山の仲間や生き物たちを描き込んだ絵が多いことに気づきます。それは群れて遊ぶことの楽しさを子ども自身が知っているからであり、色々な友だちと一緒に初めて自分らしさが発揮できると感じているからです。子どもたちの絵を上手さで比較して順位をつけるような保育からはこのような絵は決して生まれません。順位化は優越感と劣等感を育て子どもを孤立させる作用が強いからです。日々の保育が一人ひとりの子どもを人間として尊重するものであって初めて、子どもにはお互いの個性を認め合う感性と知性が育ち、多様な個性を持つ友だちの中で自分を出せる心地よさの表現として自己肯定と躍動感ある絵が生まれるのです。

保育カレンダーとの出会いは幼い子の絵が持つ意味の発見に繋がっています。その気づきをわが子が会う保育への関心を高める機会にして頂きたいと心から願っています。

保育カレンダーの収益の一部は園外活動のバス代や子どもたちが使ってあそぶ保育材料費となっています。普及が増えるごとに園外活動やあそべる材料が豊かになります。ご家族だけでなく、ご友人の方にも勧めください。10月末ごろの予定です。

日	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
曜日	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
行事	お月見会 安全点検の日				保育実習(15日まで)			大黒山登山(いちよう)				避難訓練	弁当の日			誕生会						(もも・たんぼぼ・ちゅうりっぷ)	運動会 運動会合宿(ぼぶら)	(ぼら・いちよう・ぼぶら)			運動会予備日				